

令和6年度 岡山市防災キャンプ推進事業 実績報告書

公民館名 岡山市立福浜公民館

実施施設名 岡山市立福浜公民館

1. 事業趣旨と目的

<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒等の青少年と、地域住民が災害時に必要なスキルを体験したり情報を得ることで、自分の身の安全を守ることや守り合い意識を高め、地域における防災意識の高揚に努める。 ・地域の諸団体や学校園と公民館の協力体制の充実を図る。 ・未来を担う地元の中高生が将来のリーダーとなる資質を育成する。

2. キャンプ実施実績

事業名称	親子で体験、学ぼうさい			
実行委員会名称	岡山市立福浜公民館防災キャンプ			
実施期日	第1回	令和 6 年 12 月 7 日 から 1 日間	リーダー研修	
	第2回	令和 6 年 12 月 14 日 から 1 日間	当日	
	第3回	令和 年 月 日 から 日間		
主な活動	プログラム等	講師・協力団体等	活動等の概要	活動時間
	防災講話	岡山戦国プロジェクト	干拓地における液状化現象について	1 時間
	消防関連体験	消防署・消防団	心肺蘇生法・煙道体験・水消火器・災害VR	4 時間
	緊急時体験	ボーイスカウト	簡単ロープワーク	4 時間
	非常食体験	栄養改善協議会	アルファ米と豚汁炊き出し	4 時間
	仮想体験	日本赤十字社	応急措置	4 時間
	非常時持ちだし薬	しゅうじつ薬局	防災グッズ・防災クイズ	4 時間
合 計				21 時間

3. 参加者実績(延参加者数) ※複数回開催している場合は総合計を記載

小学生	7 名	中学生	10 名	高校生	3 名
未就学時・乳児	5 名	家族・地域住民	13 名	教職員・施設職員等	10 名
有償ボランティア(講師・運営補助者等)			5 名	無償ボランティア	70 名
総 計					123 名

4. 実行委員会実績

構 成 員 数	27 名	主な構 成 員	連合町内会長、小中幼稚園代表、愛育委員代表、栄養改善協議会、民生児童委員会代表、老人福祉施設長、こども育成会、各町内会長、ボーイスカウト岡山4団、市消防団福浜分団、連合婦人会、公民館職員		
会 議 内 容	会 議 日	場 所	協 議 内 容 等		開 催 時 間
	8/17(土)	福浜公民館	目的と実施内容の検討		2 時間
	11/16(土)	福浜公民館	役割分担とスケジュールの確認		2 時間
	1/11(土)	福浜公民館	アンケート結果と次年度に向けての課題		2 時間
合 計					6 時間

5. 事業成果の周知実績

行 事 名 称	福浜公民館防災キャンプ第3回実行委員会			
実 施 期 日	第1回	令和 7 年 1 月 11 日 から 1 日間		
	第2回	令和 年 月 日 から 日間		
主 な 活 動	プログラム等	講師・協力団体等	活 動 等 の 概 要	活動時間
	意見交換	参加者	感想や改善案等の意見交換	1 時間
	アンケート結果	公民館職員	アンケート結果の報告、反省と課題	0,5 時間
	次年度に向けて	参加者	意見交換、課題から次年度に向けての進め方	0,5 時間
				時間
				時間
合 計				2 時間

6. 成果と課題

今年度の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・連合町内会会長及び有志の町内会長、各種団体等の協力により、児童・園児やその保護者の方々の防災に対する意識を高めることができた。 ・中学生がスタッフとして参加したが、当日は体調不良等によって欠席したため、当初の目的である将来のリーダーとしての資質を高めるまでには至っていない。しかし参加した中学生にとっては貴重な経験となった。 ・参加者は予想よりも少なかったが、そのことが逆に各ブースの体験をしっかりと学ぶことにつながった。 ・次年度の防災イベント実施に向けて一石を投じることができた。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者のターゲットを明確にし、地域の防災イベントの目的と重複しないようにする。 ・学校園や地域の防災イベントに協力や共催で公民館の持っているスキルやノウハウを役立てる。 ・地元の中高生が成長できる場を提供する。

7. 活動の様子

【第一回実行委員会】



防災キャンプの目的と主旨を説明して各種団体や町内会に協力をお願いをしました。

【第二回実行委員会】



実行委員の役割分担と今後のスケジュールの確認をしました。

【スタッフ研修会】



中学生を中心に消防署、消防団、ボーイスカウト、日本赤十字社から事前研修を受けました。

【講演会(干拓地における液状化現象について)】



宇喜多秀家に紛した戦国プロジェクトの井伊代表に福浜地区の地域性を踏まえて液状化現象を中心とした防災への心構えを学習しました。

【簡単ロープワーク】



事前に研修を受けた中学生やボーイスカウトの高校生から簡単なロープワークについての指導を受け、保護者にはさらに高度なロープワークを指導していただきました。

【心肺蘇生法】



岡山南消防署職員より児童や園児にもわかりやすくAEDの使い方や心臓マッサージを体験しました。

【非常食体験(アルファ米と豚汁)】



福浜、平福の栄養改善協議会の方々による豚汁の提供とアルファ米の試食でからだも心も温まりました。

【水消火器】



事前に研修を受けた中学生や福浜消防団員から消火器の取り扱いの指導をしていただきました。

令和6年度 岡山市防災キャンプ推進事業 実績報告書

公民館名	岡山市立光南台公民館
実施施設名	岡山市立光南台公民館

1. 事業趣旨と目的

自主防災意識の高揚を図る。また、避難所での生活を体験することで、日頃から防災・減災に取り組むようになる。

2. キャンプ実施実績

事業名称	防災キャンプ			
実行委員会名称	光南台公民館			
実施期日	第1回	令和 6 年 7 月 27 日 から 1 日間		
	第2回	令和 年 月 日 から 日間		
	第3回	令和 年 月 日 から 日間		
主な活動	プログラム等	講師・協力団体等	活動等の概要	活動時間
	災害時の断水対策	岡山市市民協働企画 総務課	講話(もしもの時の水の話)	1 時間
	備えを考えよう	中学生ボランティア	ダンボールトイレ担架の作り方・水害時の着せ替えゲーム	1 時間
	災害食の実習・紹介	宮浦女性防火クラブ	アルファ米とお湯ポチャ調理を体験・試食	1 時間
				時間
合 計				3 時間

3. 参加者実績(延参加者数) ※複数回開催している場合は総合計を記載

小学生	2 名	中学生	9 名	高校生	0 名
未就学時・乳児	0 名	家族・地域住民	19 名	教職員・施設職員等	13 名
有償ボランティア(講師・運営補助者等)			名	無償ボランティア	13 名
総 計					56 名

4. 実行委員会実績

構 成 員 数	10 名	主 な 構 成 員	宮浦女性防火クラブ		
会 議 内 容	会 議 日	場 所	協 議 内 容 等		開 催 時 間
	3月23日・6月14日	光南台公民館	日程調整・活動内容の検討		3 時間
	7月25日・7月26日	光南台公民館	買物・防災食の実習の準備		2 時間
	6月18日・7月8日・ 7月25日	光南台公民館	中学生ボランティアとの打合せ		4 時間
	9月14日	光南台公民館	アンケート結果報告と反省会		1 時間
合 計					10 時間

5. 事業成果の周知実績

行 事 名 称	防災キャンプ 実施報告会及び展示会			
実 施 期 日	第1回	令和 6 年 8 月 1 日 から 7 カ月		
	第2回	令和 6 年 8 月 18 日 から 1 日間		
主 な 活 動	プログラム等	講師・協力団体等	活 動 等 の 概 要	活動時間
	活動のまとめ掲示		公民館文化祭・ロビー・中学校などに展示	時間
	町内会合で報告		宮浦町内会例会で報告	時間
				時間
				時間
				時間
合 計				時間

6. 成果と課題

今年度の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・元水道局職員の方による「もしもの時の水の話」を聞き、災害時の水対策について理解することができた。その中で水に対する備えの大切さを考えるきっかけもできたと思う。 ・災害食の実習は毎回繰り返し行い、備蓄食料だけでなく日頃の生活で使用している食料や日用品を災害時に利用できるように備え(ローリングストック)を進めることができた。 ・中学生ボランティアと事前の打合せを3回行うことで、ボランティアの主体的な活動を推進することができた。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の水対策の大切さや現在の水道事情はよく理解できたが、具体的な備えを周知していく必要がある。 ・企画の段階から中学生ボランティアと一緒に取り組んで「災害に対する備えを伝える大切さ」を理解し、次世代につないでいく必要がある。

公民館名

光南台公民館

実施施設名

光南台公民館

7. 活動の様子

◇防災キャンプ 実施日:令和6年7月27日(土) 会場:光南台公民館

【もしもの時の水の話】 講話 岡山市立岡西公民館 小林秀世さん

- ①私たちの住んでいる地域と水道の歴史を知ろう
- ②水道局の取り組みと家庭でできる災害対策
- ③水道クイズ



【中学生ボランティアと一緒に防災を学ぼう】

- ①ダンボールトイレを作ってみよう
- ②着せ替えゲーム(水害時の避難)
- ③簡易担架作り



【災害食づくり】

ポリエチレン袋を利用した「お湯ポチャ調理」を実習し、配膳・試食しました。

メニュー 白飯・キーマカレー・蒸し野菜(ブロッコリーとウインナー)・蒸しパン



<参加者の感想>

- ・もしもの時の水の話は歴史を振り返りながら、今どんな感じで、どんな対策をとっているかを分かりやすく説明されて良かった。
- ・ボランティア活動を通して人に伝える楽しさや難しさなど多くの経験ができました。
- ・災害食は美味しかった。
- ・ダンボールトイレは使い方も簡単で材料も身近なものでできて良かった。
- ・中学生ボランティアの活動「着せ替えゲーム・担架づくり」が楽しかった。
- ・参加者同士のコミュニケーションがとれて、地域のつながりを持つ良いきっかけになった。

令和6年度 岡山市防災キャンプ推進事業 実績報告書

公民館名

岡山市立御南西公民館

実施施設名

岡山市立西小学校

1. 事業趣旨と目的

・地域住民と将来を担う小学生、中学生が防災という目的で関わり繋がりを持つことにより、防災以外でも地域の活動に積極的に関わり世代を超えた地域の絆をつくる。
 ・災害が起きた場合、命を守る避難行動について考え、避難所などで自分にできることを体験し災害時に地域の一人として役に立つという意識を高める。
 ・避難してきた人全員で避難所を開設し、運営していく。
 ・「誰かがする」ではなく「誰もがができる」西学区モデルの防災・避難訓練とする。

2. キャンプ実施実績

事業名称	第5回西学区防災キャンプ			
実行委員会名称	西学区防災キャンプ実行委員会			
実施期日	第1回	令和 6 年 12 月 1 日 から 1 日間		
	第2回	令和 年 月 日 から 日間		
	第3回	令和 年 月 日 から 日間		
	プログラム等	講師・協力団体等	活動等の概要	活動時間
	検温・アンケート配布	西学区安全・安心ネットワーク	参加者に検温の案内	0.5 時間
	会場設営・会場内外掲示物を掲示	参加者とスタッフ全員	会場に机・イス設置、会場内外に会場図など掲示	1 時間
	避難所利用者登録票記入・記入補助	西学区安全・安心ネットワーク	参加者とスタッフの避難所利用者登録票記入と記入補助	0.75 時間
	登録票受付と受付番号記入	西学区安全・安心ネットワーク	避難所利用者登録票の記入内容確認と受付番号を発行	0.75 時間
	登録票を記録	西学区安全・安心ネットワーク	避難所利用者登録票を名簿に転記	0.75 時間
	避難スペースへ誘導	西学区安全・安心ネットワーク	受付で発行した受付番号で避難スペースへ案内	0.75 時間
	避難スペース作り	西学区安全・安心ネットワーク	毛布縦2/3を1人分のスペースとして家族分のスペースと通路確保	0.75 時間
	避難所表示	参加者とスタッフ全員	案内・注意書き等の表示を設置	1 時間
	ベッド・テント・TVなど備蓄倉庫から搬入	西学区安全・安心ネットワーク	西小学校の備蓄倉庫から発泡スチロールベッド・パーテーションテント・視聴覚室からTVなどを会場へ搬入	1 時間

主 な 活 動	ベッド・テントなど組立収納	スタッフ	ベッド・テントの組立と収納を中学生、小学生と保護者、地域の人に指導	2 時間
	非常持ち出し袋体験	スタッフ	非常持ち出し袋の中身・重さの体験	2 時間
	軽い運動	西小学校校長	参加者、スタッフ全員で足じゃんけんなど軽い運動	0.1 時間
	防災〇×クイズ	中学生	中学生が作った防災〇×クイズを小学生と保護者に出し解答と理由を説明	0.5 時間
	進化じゃんけん	中学生	中学生が小学生と保護者と地域の人に進化じゃんけんを進行しコミュニケーションを図る	0.2 時間
	防災工作と防災講習	森田靖氏	新聞紙でコップなどの作り方と真備・能登の災害時の避難所状況など事例と講習	1 時間
	水消火器体験	北消防署今出張所・今分団	水消火器の使用訓練と防火講習	2 時間
	防火服試着	北消防署今出張所・今分団	子ども用防火服の試着	2 時間
	消防車試乗・救急車設備見学	北消防署今出張所・今分団	防火服を着て消防車に試乗と救急車の設備の見学と説明	2 時間
	マンホールトイレ	危機管理室・スタッフ	マンホールトイレとテントと便座の組立と収納	2 時間
	マンホールトイレへ放水	危機管理室・スタッフ	プールからマンホールトイレへポンプを使い放水	2 時間
	給水タンク	水道局	西小学校に設置の給水タンクの使用説明と災害時の水道の説明	2 時間
	災害医療講習	岡山市立市民病院	災害時に多いケガの応急処置と避難所での感染症対策	1 時間
	救急救命	今分団	胸骨圧迫とAED訓練	1 時間
炊出し	西学区栄養改善協議会	さば味噌煮缶カレー試食と備蓄食料展示	3 時間	
合 計			24 時間	

3. 参加者実績(延参加者数) ※複数回開催している場合は総合計を記載

小学生	48 名	中学生	12 名	高校生	1 名
未就学時・乳児	3 名	家族・地域住民	144 名	教職員・施設職員等	19 名
有償ボランティア(講師・運営補助者等)			1 名	無償ボランティア	0 名
総 計					228 名

4. 実行委員会実績

構 成 員 数	約60 名		主 な 構 成 員	西学区安全・安心ネットワーク、西学区防災部会、西地区民生委員児童委員協議会、西学区愛育委員会、西学区交通安全母の会、西学区スポーツ協会、西学区連合老人会、西学区婦人会、西学区栄養改善協議会、西コミュニティ協議会、西学区各町内会、西小学校PTA、西小学校、御南中学校、岡山市今認定こども園、ふたばこども園、くらしのたね、岡山市消防団今分団
会 議 内 容	会 議 日	場 所	協 議 内 容 等	開催時間
	4月22日	準備会	開催日程、実行委員会、スタッフ打合せ日程打合せ	1.0 時間
	7月5日	実行委員会	プログラム内容、タイムスケジュール、役割分担打合せ	1.0 時間
	8月20日	スタッフ打合せ	スタッフ役割分担打合せ	1.5 時間
	11月8日	実行委員会	プログラム、タイムスケジュール最終打合せ	1.5 時間
	12月20日	振り返り会	反省点、改善点打合せ	1.5 時間
合 計				6.5 時間

5. 事業成果の周知実績

行 事 名 称	第5回西学区防災キャンプ			
実 施 期 日	第1回	令和 6 年 12 月 10 日 から 1 日間		
	第2回	令和 6 年 12 月 20 日 から 1 日間		
主 な 活 動	プログラム等	講師・協力団体等	活 動 等 の 概 要	活動時間
	令和7年度日程、プログラム案	西学区防災連絡会執行部会	令和7年度の開催日程、実行委員会日程、プログラムの大筋案打合せ	1.0 時間
	令和6年度の振り返り	西学区防災キャンプ実行委員会	反省点、改善点など気づきをグループワーク	1.5 時間
合 計				2.5 時間

6. 成果と課題

<p>今年度の成果</p>	<p>◇今回も参加者の多くが防災訓練は初めて参加で、避難所受付など基本的な訓練で避難所体験が出来た。 ◇訓練終了後の感想では受付はスムーズだったと回答があり、過去4回の経験からスタッフは避難所開設、受付の準備など運営がスムーズになっている。 ◇また同じく感想では殆どの人から、帰って訓練のことを家族や友だちに話すと回答があり防災意識の広がりを期待する。 ◇昨年度から西小学校の児童と保護者と家族に参加募集を行い約100名の参加があり、また町内会からもまとまった自主参加があり西学区内で町内会単位で防災意識の広がりを期待する。 ◇新しい項目として、参加者の殆どが知らなかった西小学校の給水タンクの説明と、プールからマンホールトイレへ水を流す試みを取り入れ、多くの関心を集めたように毎回新たな試みを加え訓練の関心度を高めレベルアップを図っている。</p>
<p>今後の課題</p>	<p>◆中学生の○×クイズは時間、数量など数字の問題は間違った数字で答えが×では正解と間違いの数字の両方が記憶され混乱するため、数字の問題は正解の数字を質問し答えは○の作り方を指導する。 ◆各プログラムの所要時間の想定が実際と違いタイムスケジュールが予定通り進まなかった。次回はスケジュールの見直しをする。 ◆来年度は小学生の防災知識、技術習得のプログラムを増やす ◆避難所利用者登録票記入の仕方がスタッフで共有できていなかった。次回は打合せを密にして全員で共有する。</p>

7. 活動の様子

AM8:00 中学生・スタッフ集合 避難所開設

AM8:30 小学生と保護者、町内会の受付開始

検温

会場図

避難所利用者登録票記入



left 登録票受付と受付番号発行
避難者名簿作成

right 開会式
(西小学校校長先生の軽い運動)



left 中学生の進化じゃんけん
アリ→アヒル→サル→人間

right 中学生が考えた○×クイズ
出題→参加者はは○か×
に移動
中学生は答えと理由を説明



left テントとベッドの組立と収納
「簡単だったよ」

right 簡易トイレの組立と収納
「小学校に備えてあるんだ」





left 非常持ち出し袋の中身と
重さ確認
「思ったより重くなかった」
right 毛布の立て2/3が1人分の
避難スペース



left 新聞紙で紙食器づくり
「スリッパもつくれるよ」
right 炊出し訓練
さば味噌煮缶カレーは
「おかわり、美味しかった！」



left 備蓄食料の展示
「もっと種類を知りたい」
right マンホールトイレの組立と
収納
「初めてだと難しい」



left プールからマンホールトイレ
へ水を流す
right 水消火器訓練
「子どもたちに1番人気」



left 救急車の内部設備説明
「救急車の中初めて見た」
right 防火服の試着
「重い？」



left 市民病院講習:災害時に
多いケガの応急処置と
避難所の感染症対策
right 森田氏の防災講習
参加者は訓練の感想を発表





left 今分団の救急救命実習
胸骨圧迫とAED体験

right 後かたづけと清掃
モップかけ



◇消防車に乗って見よう

◇行儀がいいな～

◇さば味噌煮缶カレー



◇組立は簡単だけど収納は・・・

◇心臓はここ！

◇アンケート書かなくちゃ



◇新聞紙で食器づくり

◇できた！

◇校長先生の軽い運動って？



◇初期消火が大事

◇備蓄食料の配布訓練

◇通路も作ってね



◇何キ口まで乗れるの？

◇森田靖さんの防災講習

◇西小学校校長先生の閉会



令和6年度 岡山市防災キャンプ推進事業 実績報告書

公民館名	岡山市立御津公民館
実施施設名	岡山市立御津公民館

1. 事業趣旨と目的

平成30年度西日本豪雨で、御津地域も大きな被害を受けました。当地域は、台風等で浸水や土砂崩れが起きやすく、日頃からの備えが必要であると考えます。各小学校区で情報交換会を行い、地域住民の防災意識も高まっています。災害を想定した様々な体験学習をすることによって、一人ひとりの防災力を高め、災害が起こったときに必要なことは何か、参加者が主体的に関わり、学び、且つ中学生、高校生がリーダー的な役割を担うことで彼ら自身の成長を促す機会とする。

2. キャンプ実施実績

事業名称	第13回御津防災キャンプ『知ろう！学ぼう！明日からの防災！』			
実行委員会名称	御津防災キャンプ実行委員会			
実施期日	第1回	令和 6 年 11 月 9 日 から 1 日間	リーダー研修	
	第2回	令和 6 年 11 月 23 日 から 1 日間	当日	
	第3回	令和 年 月 日 から 日間		
主な活動	プログラム等	講師・協力団体等	活動等の概要	活動時間
	防災講話、ツール	岡山市危機管理室	基本の防災対策、避難所ツールの説明	1 時間
	消防関連体験	消防署・消防団	心肺蘇生法、水消火器、地震体験車の体験	10 時間
	緊急時体験	自衛隊	ロープワーク、ブルーシート寝袋作りの体験	8 時間
	非常食体験	栄養委員	非常食(アルファ米)を用いた炊き出しの提供	5 時間
	防災ツール体験	日本防災士会	災害用ドローンシミュレーション体験、写真展示	2 時間
	防災グッズ体験	御津女性学級	防災グッズ展示、製作体験	2 時間
	防災検定	公民館職員	防災検定で学習確認	2 時間
	非常時持ち出し薬	就実大学付属薬局	非常時持ち出し薬の説明	2 時間
	緊急車輛展示	関連部署	緊急車輛を展示し見学、体験	2 時間
合 計				34 時間

3. 参加者実績(延参加者数) ※複数回開催している場合は総合計を記載

小学生	22 名	中学生	24 名	高校生	30 名
未就学時・乳児	5 名	家族・地域住民	26 名	教職員・施設職員等	17 名
有償ボランティア(講師・運営補助者等)			0 名	無償ボランティア	68 名
総 計					192 名

4. 実行委員会実績

構成員数	26 名	主な構成員	連合町内会長、体協会長、育成協会長、愛育委員代表、小・中・高代表(6校)、小中PTA会長・副会長、消防団隊長、婦人会長、栄養委員代表、民生・児童委員会会長、社協、御津支所、公民館職員		
会議内容	会議日	場 所	協 議 内 容 等	開催時間	
	8月30日	御津公民館	今年度の内容と進め方、役割分担について協議	2 時間	
	11月12日	御津公民館	当日の役割分担とスケジュールの確認	2 時間	
	12月19日	御津公民館	反省(アンケート結果)と来年度について	2 時間	
					時間
合 計				6 時間	

公民館名	岡山市立御津公民館
実施施設名	岡山市立御津公民館

5. 事業成果の周知実績

行 事 名 称	御津防災キャンプ第3回実行委員会			
実 施 期 日	第1回	令和 6 年 12 月 19 日 から 1 日間		
	第2回	令和 年 月 日 から 日間		
主 な 活 動	プログラム等	講師・協力団体等	活 動 等 の 概 要	活動時間
	アンケート結果	公民館職員	アンケート結果の報告、反省と課題	1 時間
	意見交換	参加者	感じたことや改善案等の意見交換	1 時間
	来年度について	参加者	意見交換、課題からの来年度の進め方検討	1 時間
				時間
				時間
合 計				3 時間

6. 成果と課題

今年度の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の関係団体他、日本防災士会、消防署、警察署、自衛隊等の協力により、小学生をはじめ一般住民の方々に防災意識を高めていただくことができたと感じています。 ・次代の防災を担う中高生たちを防災リーダーとして事前研修を実施し、知識、技術を習得、体験させ且つ本番では参加者の小中学生にコーチすることでスキルアップし、結果として地域の防災がより強固になったのではと感じています。 ・今年は中学生以上の参加者も多く、年齢層は上がりました。今後も地域の住民を巻き込んだ企画にして行こうと思います。 ・被災後のリスクを最小限にする為の知識は習得できたのではと感じています。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンプの内容、テーマについては新しい企画もありますが、ほとんどが継続企画であり、参加者も減少傾向です。主旨から見れば仕方のないことですが新しい企画を考えていきたいと思っています。 ・回を重ね、イベント化しつつあり、子どもたちにとっては半分は遊び感覚があるようです。それはそれできっかけになれば良いと思いますが、今後は内容、日程を含めて再検討したいと思っています。 ・来年度以降も継続したいと考えていますが、もっと地域を巻き込んだ進め方を検討します。(一般の方々の参加、地域が自主性を以って参加する)

7. 活動の様子

○令和6年11月9日(土) 中高生リーダー研修

◇過去の防災キャンプDVD視聴後、当日実施する技能講習を受け担当ブースを決定。



○令和6年11月23日(土) 御津防災キャンプ当日

◇防災の基本対策講話



◇非常食(アルファ米)の説明



◇非常時ツールの説明



◇ブルーシート寝袋作り



◇心肺蘇生法(AED)体験



◇ロープワーク体験



◇地震体験車



◇非常用持ち出し薬



◇防災ツール展示



◇災害用ドローンシミュレーション体験



◇水消火器体験



◇防災グッズ(女性学級)



◇緊急車両展示



◇炊き出し体験



令和6年度 岡山市防災キャンプ推進事業 実績報告書

公民館名	建部町公民館
実施施設名	建部町文化センター東側広場

1. 事業趣旨と目的

三世代交流の「さわかや健康教室」に防災キャンプを組み合わせることにより、地域の防災力の向上、地域住民の防災意識の喚起、地域の絆の構築に役立てる。

2. キャンプ実施実績

事業名称	「建部上区防災キャンプ」			
実行委員会名称	建部上区防災キャンプ実行委員会			
実施期日	第1回	令和 6 年 7 月 20 日 から 1 日間		
	第2回	令和 年 月 日 から 日間		
	第3回	令和 年 月 日 から 日間		
主な活動	プログラム等	講師・協力団体等	活動等の概要	活動時間
	地震講話	建部町公民館	岡山市防災マニュアルを用いて南海地震の説明	0.5 時間
	防災グッズ紹介	同上	ナンバの「防災カタログ」を用いてグッズの紹介	0.5 時間
	防災食試食	同上	ソーラー蓄電池で沸かしたお湯でアルファ化米を戻して試食	0.5 時間
	消防講話	岡山北消防署建部建部出張所	非常時対応の説明(熱中症・火災)	0.5 時間
	水消火器体験・消防車両見学	同上	消火器の使い方と車両装備の見学	0.5 時間
合 計				2.5 時間

3. 参加者実績(延参加者数) ※複数回開催している場合は総合計を記載

小学生	33 名	中学生	0 名	高校生	0 名
未就学時・乳児	0 名	家族・地域住民	80 名	教職員・施設職員等	0 名
有償ボランティア(講師・運営補助者等)			0 名	無償ボランティア	22 名
総 計					135 名

4. 実行委員会実績

構 成 員 数	10 名	主 な 構 成 員	福渡みんなの防災団役員、防災委員、消防団、栄養委員、公民館		
会 議 内 容	会 議 日	場 所	協 議 内 容 等		開 催 時 間
	4月22日	建部町文化センター	プログラムの内容検討		1 時間
	6月14日	建部町公民館	プログラムの内容、分担の協議		1 時間
	7月12日	建部町公民館	参加者名簿、準備、分担の確認		1 時間
合 計					3 時間

公民館名

建部町公民館

実施施設名

建部町文化センター東側広場

5. 事業成果の周知実績

行事名称				
実施期日	第1回	令和 7 年 3 月 31 日 から 3 日間		
	第2回	令和 年 月 日 から 日間		
主な活動	プログラム等	講師・協力団体等	活動等の概要	活動時間
	報告書の掲示		建部町公民館ロビーに報告書掲示	時間
				時間
合 計				時間

6. 成果と課題

今年度の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・建部上区町内会では毎年この時期に地域住民が参加して防災学習と三世交代流を兼ねた行事を行っている。子どもたちが参加しやすいように夏休みに入って最初の土曜日に実施することが恒例となっており、今年度は前年度以上の参加者があった。 ・元旦に発生した能登半島地震から7か月経過した時期であり、岡山県における一番の地震の関心事は南海トラフであることから「岡山市防災マニュアル」を配布・解説し地震について再認識してもらう良い機会となった。又、岡山市のホームページから南海トラフの際の自宅付近の想定震度を確認する方法を説明して具体的に理解してもらうことができた。 ・建部町公民館が所持しているソーラー蓄電池でお湯を沸かしてアルファ化米を試食するデモンストレーションを行い、又、簡易トイレの使い方、処理の方法についても解説し実際に即して理解してもらうことが出来た。 ・防災グッズが一覧できるようにホームセンターが作成した「防災グッズカタログ」を全員に配布して必要なグッズの購入をすすめた。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・実技、体験を伴う行事のため屋外での開催にならざるを得ないが、猛暑の中で、かつ高齢者の参加も多いため熱中症対策には万全を期する必要がある。 ・多人数であることからメニューは全体への説明、一部の人の体験になってしまうので実際に即し、視覚にもうったえる分かりやすい説明を工夫する必要がある。

7. 活動の様子

◇「建部上区防災キャンプ」実施日:令和6年7月20日(土) 会場:建部町文化センター東側広場

【地震講話】

説明:建部町公民館長

◆「地震チラシ」と「岡山市防災マニュアル」を全員に配布して今一番の関心事である南海トラフ巨大地震について解説しました。又、現在地が想定震度5強であることを伝え、各自が住んでいる所の想定震度を予め知って対策を準備するよう促しました。



【防災グッズ紹介】

説明:建部町公民館長

◆防災対策と備蓄の推奨品が掲載されている「ホームセンターナンバ」が作成した「防災カタログ2024」を全員に配布して、事前の準備について説明しました。
◆避難所で必須のトイレについてバケツ簡易トイレの紹介、排泄物の処理などについて説明しました。



【防災食試食】

説明:建部町公民館長

◆ソーラー蓄電池で電気ポットのお湯を沸かしてアルファ化米を戻し子どもたちが試食しました。



【消防講話】

説明:岡山北消防署建部出張所長

◆非常時の対応について説明しました。(熱中症・火災)



【水消火器体験】

説明:岡山北消防署建部出張所職員

◆子どもたちを中心に水消火器の使い方の体験をしました。



【消防車両・救急車の見学】

説明:岡山北消防署建部出張所職員

◆希望者に車両装備の見学を行いました。



◇テレビ局が防災キャンプを取材しました。

KSB瀬戸内海放送が防災番組『こっこつ防災』で防災キャンプをとり上げるために取材に訪れました。後日、ニュースの時間に放映されました。

公民館長はインタビューに次のように答えました。

『防災を考える時には顔の見える関係づくりが大切。どんな人がどこの地域に住んでいるかを知ることが災害の時に避難弱者をなくすための一番の基本ではないかと考えています。今回も絆づくりが大きな目的です。』

◇参加者の感想

・『みんな大勢集まってくれた中で防災のことが少しは記憶に残ると思う。これは必ず役に立つのでいい企画だと思いました。』(70代男性)

・『小学校に避難するというのは家族で話し合ったことはなかったので、しっかりと避難経路を相談して決めておいて子どもたちも自分で逃げられるようにしておかないといけないと思いました。』(40代男性)

・『水消火器はやったことがなかったのでちょっと怖かったけど自分の身を守るためになったのでうれしかったです。』(小6女子)



・『将来の夢が消防士になることで、ここでの体験は貴重な体験になる。やってみたら結構使いやすくて将来のためにも生かせるかなと思いました。』(小5女子)

令和6年度 岡山市防災キャンプ推進事業 実績報告書

公民館名	建部町公民館
実施施設名	福渡コミュニティハウス

1. 事業趣旨と目的

福渡地区は前には旭川、後ろには土砂災害の危険性のある山が控えていて、住民は災害と隣り合わせに暮らしている。過去に幾度も水害に遭遇していることから住民の相互交流の機会とするとともに、災害の備えを学ぶ場とする。

2. キャンプ実施実績

事業名称	「福渡子ども防災教室」			
実行委員会名称	福渡防災キャンプ実行委員会			
実施期日	第1回	令和 7 年 1 月 18 日 から 1 日間		
	第2回	令和 月 日 から 日間		
	第3回	令和 年 月 日 から 日間		
主な活動	プログラム等	講師・協力団体等	活動等の概要	活動時間
	避難所受付	福渡みんなの防災団	公民館避難の際の受付、検温、消毒	0.5 時間
	地震講話	建部町公民館	「地震チラシ」を用いて南海地震の説明	0.5 時間
	防災グッズ紹介	建部町公民館	「防災カタログ」を用いて防災対策&備蓄商品の説明	0.5 時間
	防災カルタとり	福渡みんなの防災団	福渡オリジナル防災カルタで楽しみながら防災全般について学習する	1 時間
	消火器体験	福渡消防団	いざという時の消火器の使い方を学習する	0.5 時間
合 計			3 時間	

3. 参加者実績(延参加者数) ※複数回開催している場合は総合計を記載

小学生	7 名	中学生	0 名	高校生	0 名
未就学時・乳児	6 名	家族・地域住民	12 名	教職員・施設職員等	0 名
有償ボランティア(講師・運営補助者等)			名	無償ボランティア	14 名
総 計					39 名

4. 実行委員会実績

構 成 員 数	15 名	主 な 構 成 員	福渡みんなの防災団役員、防災委員、消防団、栄養委員、公民館	
会 議 内 容	会 議 日	場 所	協 議 内 容 等	開 催 時 間
	12月13日	建部町公民館	日程、内容、実施時間、準備品の検討	1 時間
	1月6日	建部町公民館	参加者名簿、役割分担、準備物、全体の流れ確認	1 時間
				時間
				時間
合 計				2 時間

公民館名	建部町公民館
実施施設名	福渡コミュニティハウス

わ 5. 事業成果の周知実績

行 事 名 称				
実 施 期 日	第1回	令和 7 年 3 月 31 日 から 3 日間		
	第2回	令和 年 月 日 から 日間		
主 な 活 動	プログラム等	講師・協力団体等	活 動 等 の 概 要	活動時間
	報告書の掲示	福渡みんなの防災団	建部町公民館ロビーに報告書掲示	時間
				時間
合 計				時間

6. 成果と課題

今年度の成果	<p>・阪神・淡路大震災から30年、東日本大震災から14年、能登半島地震から1年経過した時期であり、県民に一番関係の深い南海トラフ地震について「地震チラシ」と「岡山市防災マニュアル」を配布して説明した。建部地域は水害に目が向きがちであるが改めて地震の恐ろしさについて認識し、対策の重要性を考えるきっかけになったようである。</p> <p>・「ナンバホームセンター」が作成した防災対策と備蓄の推奨商品が掲載された「2024防災カタログ」を配布して紹介した。防災グッズを一覧できるカタログは少ないので役立つと好評だった。</p> <p>・「防災カルタ」取りでは防災の基本となる知識を楽しみながら身に付けることができた。</p> <p>〈保護者の感想〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生の孫が参加したいというので楽しんで来させていただきました。 ・楽しみながら学べました。 ・いろいろ勉強になることがあり良かったです。 ・今日は大人でも大変勉強になり楽しめました。 <p>〈子どもの感想〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消火器の体験がとても楽しかった。 ・貴重な体験を増やしてほしい。
今後の課題	<p>・福渡地区は子どもの少ない地域であり加えて当日に行事が重なり、大幅に参加者の減少が見込まれたため今回は建部地区からも参加者を募ったところ参加した当該地区の保護者、児童からは大変好評であった。現在、建部地区で防災キャンプを実施しているのは建部上区のみで、他地域では行っていないため保護者も子どもも又やってほしいという声が多かった。建部小学区全体をエリアにした防災キャンプの開催が望まれている。</p>

7. 活動の様子

◇「福渡防災教室」実施日:令和7年1月18日(土)会場: 福渡地区コミュニティハウス

【受付】

◆防災団役員がコミュニティハウス入り口に受付を設置。避難してきた住民の検温を行い、名簿登載。避難室に誘導しました。



【地震講話】

説明:建部町公民館長

◆岡山県民に一番関係の深い南海トラフ地震について「地震チラシ」で概略説明した後、「岡山市防災マニュアル」で詳細を説明しました。又、南海トラフの際の自宅付近の想定震度を説明して備えについて理解を深めてもらいました。

【三宅団長が開会あいさつ】

2025.1.18 福渡センター

- 阪神・淡路大震災から 30 年
- 東日本大震災から 14 年
- 能登半島地震から 1 年

阪神・淡路大震災	東日本大震災	能登半島地震
発生時刻 1995.1.17 午後5時44分	発生時刻 2011.3.11 午後2時46分	発生時刻 2024.1.1 午後4時30分
最大震度 7	最大震度 7	最大震度 7
マグニチュード 7.3	マグニチュード 9.0	マグニチュード 7.6

○南海トラフ巨大地震

★想定最大震度 **6強** (岡山市)

★ここ福渡地区コミュニティハウス付近は
震度5強
非常な恐怖を感じる・・・
多くの人が行動に支障を感じる・・・

★想定マグニチュード **9.0**

★発生時期 **今後30年以内に発生する確率は80%程度**
(2025.1.15～)

【防災グッズ紹介】

説明:建部町公民館長

◆「ナンバホームセンター」作成の「2024防災カタログ」を配布して防災対策と備蓄に関する主な商品を紹介しました。防災カタログを作成しているホームセンターはナンバとコーナンだけなのでグッズが一覧できて役に立つと好評でした。

【地震チラシ】

【福渡防災カルタ取り】

説明:三宅防災委員

◆防災カルタの読み札で内容を学習した後、子どもたち全員でカルタ取りを行いました。



【カルタの
絵札と読
み札一
覧】



【防災カルタ取り】

【消火器体験】

説明・実演:福渡消防団長

消火器の使用方法を説明してもらい、実際に水消火器を使って、火元に当てる体験を子どもたちと高齢者が行いました。



令和6年度 岡山市防災キャンプ推進事業 実績報告書

公民館名	岡山市立瀬戸公民館
実施施設名	岡山市立瀬戸公民館

1. 事業趣旨と目的

令和6年元旦に起きた能登半島地震や、これから発災が想定される南海トラフ地震を踏まえ、江西学区の避難所の1つである瀬戸公民館において中高生ボランティア、地域住民が一堂に会し、避難所生活を仮定した防災キャンプを実施する。
あわせて、防災に欠かせない技術や知識習得のため、必要な学習の機会を提供する。

2. キャンプ実施実績

事業名称	瀬戸公民館防災キャンプ			
実行委員会名称	瀬戸公民館防災キャンプ実行委員会(瀬戸公民館、江西学区防災会、瀬戸町内会、寺地町内会、肩脊町内会、瀬戸町大内FOS少年団)			
実施期日	第1回	令和6年8月9日から1日間		
	第2回	令和6年11月1日から1日間		
	第3回	令和 年 月 日から 日間		
主な活動	プログラム等	講師・協力団体等	活動等の概要	活動時間
	ランタンづくり	公民館職員	LEDライトと和紙等を使った非常用ランタンづくり	2時間
	液状化現象実験	公民館職員	液状化現象のメカニズムを体験できる実験	2時間
	段ボールベッドづくり	FOS少年団	段ボールを活用した簡易ベッド作成	1時間
	新聞紙食器づくり	FOS少年団	新聞紙を活用した簡易食器づくり	1時間
	避難所で活用できるレクリエーション	FOS少年団	紙コップやピンポン玉など、避難所にありそうなアイテムを使ったレクリエーションの実体験	1時間
	防災講話	江西学区防災会	防災士による南海トラフ地震のメカニズム説明、瀬戸町地域で起こりえる災害の説明	1時間
	避難訓練	江西学区防災会	公民館から隣接する児童公園への避難誘導訓練及び点呼・連絡体制のシミュレーション	1時間
	炊き出し訓練	瀬戸町内会、寺地町内会、肩脊町内会	アルファ化米や家庭にある冷凍食品を活用した災害用献立の炊き出し調理及び配食訓練	2時間
	江西小学校防災学習会	江西学区連合町内会 江西小学校	江西小学校にて災害時の避難学習会の実施	1時間
合 計				12時間

3. 参加者実績(延参加者数) ※複数回開催している場合は総合計を記載

小学生	135名	中学生	7名	高校生	3名
未就学時・乳児	0名	家族・地域住民	46名	教職員・施設職員等	6名
有償ボランティア(講師・運営補助者等)			0名	無償ボランティア	0名
総合計					197名

4. 実行委員会実績

構 成 員 数	75 名	主 な 構 成 員	江西学区連合町内会、瀬戸町内会自主防災会、肩脊町内会自主防災会、寺地町内会自主防災会、瀬戸町大内FOS少年団、社会福祉協議会、瀬戸公民館	
会 議 内 容	会 議 日	場 所	協 議 内 容 等	開催時間
	7月中～8月8日	岡山市立瀬戸公民館	公民館職員による準備	6 時間
	8月3日	岡山市立瀬戸公民館	3町内会の資材準備と分担協議	2 時間
	8月6日	東区役所	備蓄食料等受取	1 時間
	8月8日		炊き出し訓練用食材等買い出し	2 時間
	8月8日	岡山市立瀬戸公民館	事前準備、防災資機材搬入・設置	4 時間
	10月25日	江西小学校	防災学習会準備	1 時間
				時間
合 計				16 時間

5. 事業成果の周知実績

行 事 名 称	瀬戸公民館防災キャンプパネル展			
実 施 期 日	第1回	令和 6 年 11 月 12 日 から 20 日間		
	第2回	令和 年 月 日 から 日間		
主 な 活 動	プログラム等	講師・協力団体等	活 動 等 の 概 要	活動時間
	防災キャンプ写真等の展示		瀬戸公民館ロビーに活動記録写真、段ボールベッドを展示	時間
合 計				0 時間

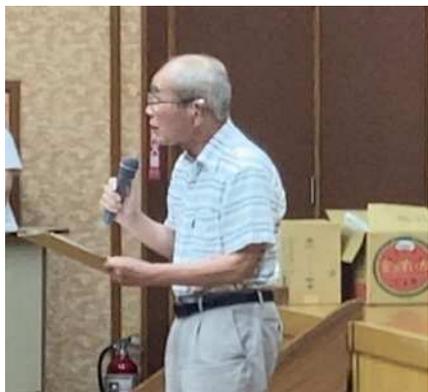
6. 成果と課題

今年度の成果	<p>瀬戸公民館で初めて夜間を含む6時間の防災キャンプを開催したが、江西学区連合町内会及び近隣の3町内会、社会福祉協議会、社会教育団体と企画運営を協働で実施し、多くの地域住民に参加いただいた。特に若い子育て世代の家族の参加者が多かった。</p> <p>また、中高生ボランティア(10名)も、避難所を想定した受付と参加者の誘導、ランタンづくり、液状化現象実験、新聞紙食器作り、段ボールベッド体験などの補助や、炊き出し体験ではカレーの配食等を率先して活動した。参加した中高生ボランティアは全員ボランティア体験が初めてだったが、今後もボランティア活動に活発に参加したいと抱負を語っていた。</p> <p>防災キャンプ前日に起きた日向灘沖の地震、南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)も発表された直後だったため、参加者は真剣に防災キャンプに取り組んだ。</p> <p>液状化現象実験では、「自分の住む地域で起こればどうなるか」と真剣に考える家族や、食材調達に困難な時の炊き出し体験など避難時の活動に参考になったという声が多かった。</p> <p>日没後、館内に緊急地震速報を流し、照明を落とし真っ暗な中避難訓練も行った。本当に地震だと思いきや座席から立ち上がった母親もいた。</p> <p>災害時に役立つ訓練ができたこと、参加者の防災意識の高揚に繋がったのではないだろうか。次年度も瀬戸公民館で防災キャンプを開催してほしいと各団体より熱望された。</p>
今後の課題	<p>今回の防災キャンプで、江西学区が液状化の危険度が高い地域であることを初めて知った人達が多かったことを鑑み、一人でも多くの地域住民がいつ起こるかわからない災害に備える行動ができるよう継続的な学習の機会を提供し、地域住民の防災意識の高揚を図りたい。</p>

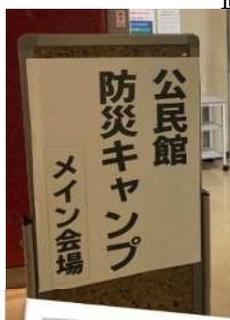
7. 活動の様子

【令和6年8月9日(金) 瀬戸公民館防災キャンプ】

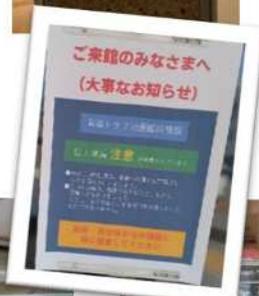
《連合町内会長による開会あいさつ》



高校生ボランティアによる避難所受付訓練



《掲示板・注意事項を確認》



《液状化現象実験》



トントントンと容器を上下に揺ると、下から水が上がってくる！

大人も子供も興味津々！館長による液状化現象実験と、液状化のメカニズムをスライドを見ながら講習を受けました。防災マップで自分の住んでいる地域の危険箇所を再確認しました。



《らんたん作り》



1枚の紙を折り、中にLEDライトを入れれば出来上がり。



《段ボールベッド体験・新聞紙で食器づくり》



小さな段ボールをどう配置すれば寝られるのかな？



《防災動画鑑賞・学区内防災士による講話》



《非常食配食、炊き出し訓練》



包丁をなるべく使用しないように、ジャガイモや人参を使わず、ナスとミックスベジタブルを活用した時短カレーの出来上がり。カレー粉も安価な3種類をあえて使用しました。

非常食配布用のアルファ化米にお湯をいれ、出来上がったわかめごはんをカレー皿に入れます。



中学生に配食してもらい、参加者は1列に並んでカレーを受け取りました。



「えー！わかめごはんのカレーなの？」
「コーンが入ってる！やったー！」と
子ども達は大喜び。
避難所で配られる非常食を美味しくいただきました。

《避難訓練》



館内に緊急地震速報を流し、照明を落とし、真っ暗な中、隣の公園に避難しました。グループの代表が人数を確認し、館長へ報告しています。

《非常食配布訓練》



ボランティアの中高生が非常食の配食も手伝ってくれました。子供たちも1列に並んでいます。



【令和6年11月1日(金) 防災学習会】

会場:江西小学校ランチルーム

《非常持出袋についてお話ししました。》



教頭先生から、防災会の皆さんのご紹介がありました。



「非常持ち出し袋には何を入れたらいいでしょうか？」



江西学区連合町内会では防災キャンプ事業の一環として、江西小学校1年生に、『非常持ち出し袋の贈呈』を行っています。非常持ち出し袋の中には岡山市危機管理室からいただいたクラッカー、水、アルファ化米と、入れる物チェックシートを入れました。

防災会の田淵会長から「一人ひとり、非常持ち出し袋に入れるものは違うかもしれないけれど、家に持ち帰って家族で何を入れたらいいか相談してください」とお話がありました。

1枚の非常持ち出し袋をとおして、家族全員で『防災』について考えてもらういい機会になればと思

岡山市防災キャンプ推進事業 実施イメージ

現状の防災教育

- ① 小学校、中学校、幼稚園、保育園等の施設単位での児童・生徒等向け防災教育
- ② 公民館、安全・安心ネットワーク団体等が行う町内会・小中学校区単位での地域住民向け防災教育



東日本大震災等、過去の災害から得た教訓を活かすときが来ている

- (1) 相互扶助の「まもりあい」
高齢者、障がい者、児童・生徒、乳幼児…多様な世代が相互扶助の精神を発揮して「まもりあい」お互いの生命を守る必要性が高まっている
- (2) 災害はいつ起こるか分からない！
児童・生徒・乳幼児であっても、学校園外で暮らす時間帯が存在する(放課後等)ことを理解し、さまざまな状況下においても身の安全を守るための経験が必要不可欠

児童・生徒に対する地域での防災教育が必要
児童・生徒を基軸とした地域住民の「絆」再生の好機

これからの防災教育

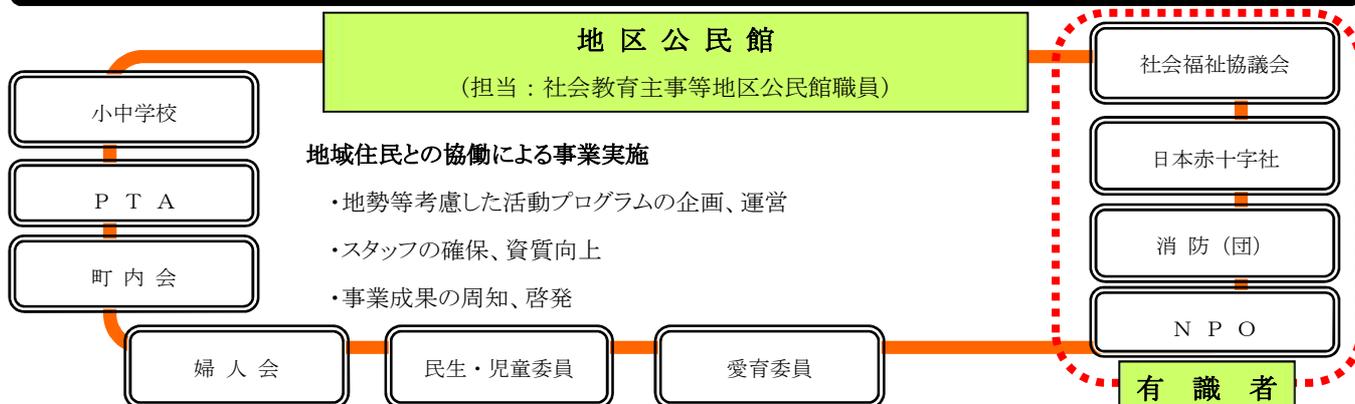
- ① 児童・生徒、地域住民が一同に参画した防災教育が必要
- ② 児童・生徒を基軸にした「住民の絆」再生が必要

岡山市防災キャンプ推進事業

災害発生時に自分の身の安全を守ること、必要不可欠な相互扶助の精神(「まもりあい」意識)を高めるための防災教育

- I 児童・生徒と地域住民が関わり合う(=絆作り・共助精神の養成)
- II 児童・生徒と地域住民が経験し合う(=共通の防災意識を共有)
- III 児童・生徒と地域住民が教え合う(=災害に対応しうる技術や知識、応用力を相互補完)

防災キャンプ実行委員会 (実施公民館ごとに設置)



地域住民との協働による事業実施

- ・地勢等考慮した活動プログラムの企画、運営
- ・スタッフの確保、資質向上
- ・事業成果の周知、啓発

有識者による支援

災害支援活動に従事する諸団体や野外活動のノウハウを有する団体との連携による支援(助言)体制の確立、事業成果の向上

- I プログラム策定に際しての助言・提言
- II 事業実施時の指導・助言、資機材の貸与
- III 事業成果の効果的な活用に関する指導・助言

地域の実情を十分に把握

I 市民の防災意識の高揚

日常居住している地域で、発生する災害を予測し、災害発生時でも冷静に対応できる応用力を養成するために、避難所開設実習や屋外での炊き出しなど、災害発生時に想定される状況を疑似体験できる学習機会を提供し、地域住民の防災意識の高揚を図る

II 児童・生徒、地域住民が一同に参画した防災教育

共通の学習体験を通じて、児童ならびに生徒を基軸にした「地域住民間の絆づくり」を図り、地域住民間の共助精神の養成と、将来的な地域防災ネットワーク構築の機運を醸成する

III 生涯学習への関心の高揚

児童ならびに生徒が、学校教育外の環境(放課後・学校休業日)において罹災した場合など、様々な状況下においても身の安全を確保しうるために、必要な技術や知識を学習する機会を提供する

令和6年度 岡山市防災キャンプ推進事業 実施要項

令和6年3月19日
地域子育て支援課

1 目的

- (1) 日常居住している地域で、発生する災害を予測し、災害発生時でも冷静に対応できる応用力を養成するために、避難所開設実習や屋外での炊き出しなど、災害発生時に想定される状況を疑似体験できる学習機会を提供し、地域住民の防災意識の高揚を図る。
- (2) 共通の学習体験を通じて、児童ならびに生徒を基軸にした「地域住民間の絆づくり」を図り、地域住民間の共助精神の養成と、将来的な地域防災ネットワーク構築の機運を醸成する。
- (3) 児童ならびに生徒が、学校教育外の環境（放課後・学校休業日）において罹災した場合など、様々な状況下においても身の安全を確保しうるために、必要な技術や知識を学習する機会を提供する。

2 内容

公民館が中心となり、児童・生徒等の青少年ならびに一般市民が、学校休業日や放課後などに災害に遭遇した場合でも、自らの生命を守ることでできる防災技術や知識を体験して学ぶことができる、防災教育プログラムを実施すること。なお、実施にあたっては、児童・生徒等の青少年ならびに一般市民を対象とし、下記（1）～（3）のいずれかを含む内容のものであって、**原則として1日3時間以上の体験学習プログラムを実施すること。**

- (1) 地理環境等より想定される災害を視野に入れた防災教育プログラムの実施
- (2) 体育館、校庭、公民館等公共施設を避難所として想定したプログラム実施
- (3) 地域住民と児童・生徒等の青少年が相互理解を深め、相互扶助の精神を高揚することを目的とした活動プログラムの実施

<事業実施時の留意点>

・実施期間

事業の実施期間は、令和6年4月1日から令和7年1月31日までとする。

・実施日数

事業の実施日数は、特にこれを定めない。また、宿泊を必須とするものではないが、宿泊を伴う場合には予算の加配を行う。

・事業の対象

事業の対象は、岡山市内在住ならびに在勤・在学の青少年を基本とする。本事業における青少年とは、18歳未満の児童ならびに生徒等を指す。なお、事業効果ならびに事業成果の拡充をはかるために必要と認められる場合、対象を拡大することができる。また、活動内容ならびに実施場所の都合によって、年齢の制限や定員を定めることができる。

・事業の実施単位

事業の実施最小単位は、小学校区とする。ただし、事業効果ならびに事業成果の拡充をはかるために必要と認められる場合は、この限りではない。

・実施場所

事業の実施場所は、社会教育施設ならびに学校教育施設とする。ただし、事業効果ならびに事業成果の拡充や学習内容の充実のために必要と認められる場合は、この限りではない。

・実施主体

事業の実施主体は、岡山市教育委員会とし、公民館がその主たる運営を行う。

・運営主体

地域住民や学識経験者、社会教育施設職員を含む実行委員会を組織し、運営にあたること。実行委員会の構成員については、おおむね中学校区単位で存在する地域団体を視野に入れ、連合町内会、安全・安心ネットワーク、婦人会、子ども会、放課後児童クラブ、PTA等地域防災の担い手となりうる地域団体の参画を検討すること。

また、公民館以外の施設を利用する場合は、利用施設の長などの参画に努めること。

3 予 算

以下の費目において必要な経費を予算措置するものとする。

各費目において、予算不足の場合は担当課へ相談すること。

なお、不足する経費について参加者に負担を求めることができる。

費 目	根 拠 及 び 用 途
報 償 費	<p>【基準額】1回の開催につき、各館15,000円以内。支払金額は以下に準じること。</p> <p>①有識者(大学教授・研究員等) 日額上限 15,000 円</p> <p>②国家資格等保有者またはそれに準じるもの 日額上限 10,000 円</p> <p>③その他 日額上限 5,000 円</p> <p>【用途】</p> <p>(1)活動(事前研修を含む)にあたって招聘した講師・運営補助者等への謝礼</p> <p>(2)成果発表・啓発のために行う活動において招聘した講師等への謝礼</p>
消 耗 品 費	<p>【基準額】</p> <p>1回の開催につき、各館35,000円以内</p> <p>宿泊を伴う場合、5,000円加算</p> <p>【用途】</p> <p>事業実施及び成果発表・啓発のために行う活動に用いる教材(1品30,000円未満)、炊き出し体験等に用いる食材、事務用品等</p> <p>※教材は、耐用年数が1年未満のものに限る。</p> <p>※参加者に全員配布し、回収しない教材に関する費用は、受益者負担とする。</p>
燃 料 費	<p>【基準額】1回の開催につき、各館5,000円以内</p> <p>※燃料費の対象となるのはLPガスのみ。</p> <p>薪・カセットガスは消耗品費内で積算すること。</p>
食 糧 費	<p>【基準額】</p> <p>1回の開催につき、各館20,000円以内</p> <p>宿泊を伴う場合、10,000円加算</p> <p>【用途】</p> <p>実行委員会開催や事業実施時の飲料</p>
保 険 料	<p>岡山市市民活動保険の対象とならない(例:謝礼金額が1日あたり3,000円を超える場合等)スタッフ・外部講師分に限る。</p> <p>※参加者は岡山市市民活動保険の対象となる。</p>
医 薬 材 料 費	<p>【基準額】公民館1館あたり 3,000円以内</p> <p>【用途】カットバン・湿布等、救急応急処置のために用いるもの。</p> <p>※除菌用アルコールは消耗品費内で積算すること。</p>
通 信 運 搬 費	<p>【基準額】 1回の開催につき、10,000円以内</p> <p>【用途】実行委員会開催案内等防災キャンプに係る郵送料</p> <p>※担当課で切手を購入後の支給となります。</p>

4 物品の貸し出し・提供

事業実施に必要な物品を提供もしくは貸し出します。

【提供】

①アルファ米・クラッカー・ライスクッキー・水

※前年度残の提供のため、残数限りの提供、また、賞味期限の関係で、7月開催までの提供。

当課提供分で不足する場合、8月以降に開催する場合は、各実行委員会から岡山市備蓄食糧等給付申請を危機管理室に行ってください。

②ハイゼックス（ねこ袋）

【貸し出し】

※在庫数に限りがあります。貸出希望館が重なった場合、館同士の調整をお願いする可能性があります

①毛布：15枚、ブルーシート：30枚

②コンロ：2個（LPガス接続用）

③炊き出し用具（寸胴鍋：2、アルマイト鍋：20（うち満水時210：10、150：10）、やかん5（60）、ジャグ5（80）

④ビブス（赤・黄・緑）各色5セット

5 今後の予定

実績報告は令和7年2月28日締切です。

写真等を掲載する場合は、当該対象者に写真使用の承諾を得てください。

令和7年3月13・14日 令和6年度防災キャンプ推進事業 事例報告展

（岡山市役所本庁舎1階市民ホール）

防災キャンプ実施成果を模造紙1～2枚でまとめてください。

防災グッズ等があれば、合わせて掲示しますので、模造紙とあわせて令和7年3月7日までに担当課へ提出してください。展示物は、報告展終了後返却可能です。



【問い合わせ先】

岡山市岡山っ子育成局子育て支援部地域子育て支援課
〒700-8544 岡山市北区大供一丁目1-1
電話番号：086-803-1607
FAX番号：086-803-1718